大学基準７．教育研究等環境

中期目標
【目標１】教育研究等を支援する環境を適切に整備する。
【目標２】学生・院生並びに教職員の教育研究環境を多角的に支援できる図書館サービスを展開する。
【目標３】大学構成員の立場に立ったキャンパス環境の整備を行う。

（１）全学教務委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　初年次教育における修学基礎力の向上を目的として、教養科目群で SA を配置する。 [1-2]　e-learning 利用環境を組織的に整備し、定期的な利用講習やコンテンツの作成補助等を行うことで、講義時間外学習時間の確保、繰り返し学習による知識の定着、資格試験準備対策等のための教材作成に向けた授業支援を行う。			[1-1] ①授業評価アンケート ②GPA 分布・推移 ③単位取得状況分布・推移 [1-2]①教育支援に対する教員満足度
2017 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　学生間、特に初年次学生間のピアサポートを促す一助として、SA を活用する。SA の専門性を高める研修とともに、SA を有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2] インターネットを利用した授業配信や、学習資料の web を通した常時利用について、科目担当者や情報処理課と共同して検討する。実践例を収集し「10 分 FD」等で周知を図る。	[1-1]　Newvery の協力を得て、SA 研修会を複数回行なった。参加率に学部間で差があったため、全学教務委員会の場で教務委員長に参加率が低い理由を尋ね、2018 年度の改善点とした。SA の成果報告会を FD 研究会で行ない、2018 年度の改善点を把握した。SA を利用する際の注意を、全学教務委員会の場で教務委員長に周知したが、教員研修を開催するまでには至らなかった。 [1-2]　体系的な調査及び呼びかけには至らず、情報処理課との協働や実施例の収集も実現できなかった。	[1-1]　初年次教育の強化の一環として SA 導入を試みたが、2017 年度から本格的な出席管理システムを導入したことから、出席状況の比較分析等が十分に行えなかった。SA 研修会については、SA 相互の交流を促進することを重点に 2018 年度以降も引き続き実施する。 [1-2] インターネットによる授業配信、ｗｅｂによる教材の配付等について検討は十分に行えなかった。2018 年度以降の継続課題とする。
2018 年度	年次計画内容		
	[1-1]　学生間、特に初年次学生間のピアサポートを促す一助として、SA を活用する。SA の専門性を高める研修とともに、SA を有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2]インターネットを利用した授業配信や、学習資料の web を通した常時利用について、科目担当者や情報処理課と共同して検討する。実践例を収集し「10 分 FD」等で周知を図る。		

（２）図書委員会

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　各種図書館ガイダンスのあり方を見直し、学生の有効な図書館利用を促進する。 [2-2]　教員の図書館利用環境について調査し要望があれば、有効な改革を検討し実現する。 [2-3]　新書庫設置の可能性を追求しつつも、現状書庫の有効活用のため、利用度の低い資料の整理を行うなど収納スペースの確保を行う。			① 利用者アンケート ② 各種図書館利用度数 ③ 書架スペースの棚数 ④ 資料増減量
2017 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 　新たにデータベース毎の利用ガイダンスを実施する。	①　新入生オリエンテーションは４月６日から 25 日にかけて、全学部･学科の基礎クラス対象に図書館の基本的な使い方の説明及び図書館ツアーを実施した。 ②　情報リテラシーガイダンスは、論述作文と連携し、前期は５月中旬にＯＰＡＣでの図書検索・館内での所在確認、新聞記事データベース、マイライブラリの使い方等の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。後期は 10 月中旬に CiNii を活用した雑誌論文検索と所在確認･入手方法についての説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。 ＊利用者アンケートに基づく達成状況 情報リテラシーガイダンスのアンケートの実施結果は、前期では 80.6%、後期では 68.0%の学生がガイダンスは役に立つとの評価であり、また、職員のプレゼンについて前期で 73.9%、後期で 61.2%の学生がわかりやすかったと評価している。 ③　ゼミガイダンスは３年次・４年次及び大学院のゼミを対象にゼミの担当教員と図書館担当者でガイダンス内容を吟味しゼミの課題にあった資料の紹介やデータベースの使い方の説明を行い、実習課題で知識の定着をさせてい	情報リテラシーガイダンスについて昨年度と比較して後期ガイダンスの数値が若干落ち込んでいる。ゼミガイダンスは昨年度と同様の実施結果であった。これらの数字については経年変化を見て検証していきたい。 　昼休みガイダンスについては、実施回数、内容等を充実させ、継続的に実施する。 　中期目標の達成状況の観点から、引き続きガイダンスを中心としたサービスの充実を図って行く。 　なお、ガイダンスの質的な問題は現状では発生していないと判断している。

		る。前期３ゼミ（経済１・人文２）、後期３ゼミ（人文１・経済１・法学研究科１）の合計６ゼミに対して実施した。 ＊ゼミガイダンス実施件数（図書館利用度数）に基づく達成状況 ゼミガイダンス：当年度の実績は６件であった。 ④　今年度初めての試みとして、図書館サービスやデータベースの使い方を昼休みの時間帯を活用して実施する図書館昼休ガイダンスを行った。今回は、「図書館に所蔵しない図書や雑誌論文をマイ・ライブラリの機能を活用して他大学から取り寄せる方法」を 12 月中旬に実施し、臨床心理学科の学生３名の参加があった。	
	[1-2] ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。	ラーニング・コモンズは、グループ学習を行う学生・教員に活用されている。図書委員会では、学生の具体的な利用状況や問題点を探るため 10 月中旬に「ラーニング・コモンズ利用アンケート」を実施し学生の利用実態及び要望についてとりまとめを行った。学生の要望について２階出入口の利用時間変更、スマホ充電について可能な範囲で対応することとした。 ラーニング・コモンズ利用アンケートに基づく到達状況 ・実施期間：2017 年 10 月 19 日～11 月 17 日 ・方法：ラーニング・コモンズを利用している学生にアンケート用紙を配布 ・回収数　：300 件 アンケートの集計結果より、学生はラーニング・コモンズで様々な課題解決のため共同学習を行っていることが明らかになった。	ラーニング・コモンズの学修環境は大変好評で、学部・学科、学年を問わず、多くの学生が課題解決のために利用していることが今回のアンケートで明らかになった。 今後も学生や教員の利用状況を注視しラーニング・コモンズの活性化を図って行く。
	[1-3]　理事会の決定に基づき、書庫及び閲覧室の増築について具体的な対応を行う。必要に応じて除籍を行い配架スペースを確保する。	書庫増築については、財政再建計画 2017 の第３次案のキャンパス整備において実施する旨が盛り込まれた。また、新札幌キャンパスにおける図書館施設との関連もあり、具体的な検討は 2018 年度に持ち越されることとなった。2017 年度から書庫狭隘による特別除籍は中止し、複本の廃棄による通常の除籍と日々の書架移動により必要なスペースの確保を行った。	2017 年度は、2012 年度から 2016 年度まで実施した書庫狭隘除籍により創出した空棚を活用し、２号館書庫及び１層・３層の書架を再編し資料移動を行い増加図書を配列した。 また、新書庫を含む図書館施設整備については、新札幌への拠点展開の議論の中で検討されることになった。
2018 年度	年次計画内容		
	[1-1] ・新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 ・昼休みを活用したデータベース等の利用ガイダンスを実施する。		
	[1-2] ・ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。 ・教職員・学生からのラーニング・コモンズを活用したイベント等の利用希望については積極的に応えて行く。		
	[1-3]　理事会の決定に基づき、新札幌キャンパスでの図書館施設及び江別キャンパスでの新書庫の設計について具体的な検討を行い、資料移動及びそれぞれのキャンパスにおける図書館運営について基本計画案の策定を目指す。		

（３）研究支援委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　個人研究費の次年度持ち越しのための研究を行う。 [1-2]　研究業績をデータベースシステムへ入力する仕組み・枠組み・支援体制を整備する。	[1-1] 他大学の状況を調査し、本学における実現可能性を見極める。関係部署に実現性の研究をしてもらう。 [1-2] 研究業績記入等教員の最低限の義務事項をまとめ、研究業績の公表義務を周知すると共に、研究費支給の一条件とすることの検討を始める。また所属長から働きかけを行うと同時に、アクティビティの高い教員を評価する（表彰等）。

７．教育研究等環境

2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　（個人研究費関係） (1) 個人研究費次年度持ち越しの調査を基にその実現可能性を検討する。 (2) 傾斜配分の検討を行う。 (3) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。	[1-1] (1) 学内会計の都合上、実現は難しいとの情報を得た。 (2) 議論にはいたらなかった。 (3) 旅費規程の変更に伴い、出張旅費に関わる業務の効率化を行いたい。	[1-1] (1) 委員会での検討は行わなかった。 (2) 計画通りにはできなかった。 (3) 旅費規程の変更に伴う業務の効率化を、次年度から行う予定である。
	[1-2]　（研究業績関係） (1) 業績登録を researchmap に移行したので、その情報の効率的利用、評価のための運用方法を検討する。 (2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について検討する。	[1-2] (1) 今年度で reserchmap に完全に移行することになった。教員業績に関しては reserchmap のデータを用いることとした。 (2) 業績評価に関して、留研・奨励金採用教員の成果報告に関して、丁寧にチェックすることとした。	[1-2] (1) 教員の業績入力を reserchmap に一元化したことで、効率的な利用を行う準備が完了した。 (2) 成果報告が必要なものについては、きちんとチェックを行った。
	[1-3]　（在外・国内研究員制度） (1)　2016 年度に見直した、新たなルールで執行し、チェックしていく。	[1-3] (1)　新ルールに基づいた制度の運用を開始した。	[1-3] (1)　計画通り達成した。

2018年度	年次計画内容
	[1-1]　（個人研究費関係） (1) 傾斜配分の検討を行う。 (2) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。 [1-2]　（外部資金関係） (1) 科研費への応募に関して全教員宛にメール・掲示を通して適切な時期にアナウンスし、申請対象者に説明会を開催する。 (2) 科研費申請者に対しては個別の対応を行い、研究者の支援を積極的に行う。 　研究促進奨励金の「重点研究」のカテゴリでは、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金への応募を条件とすることで、外部資金の獲得を目指す。
	[1-3]　（研究業績関係） (1) 業績登録を researchmap に一元化した。情報の効率的利用、評価のために、状況をモニタする。 (2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について検討する。
	[1-4]　（在外・国内研究員制度） (1) 現行ルールで特段の問題は見つかっていないが、継続的にチェックしていく。

（４）電子計算機センター運営委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　教育研究システムの安定運用を図る。 [1-2]　e-learning 利用環境を組織的に整備するなど、教員のニーズに合わせた授業支援を行う。 [1-3]　情報基礎科目の履修学生に対する学習支援を継続的に行うとともに、躓きのパターンを分析し、その情報を担当教員と共有することで、学生の理解度を高める工夫を行う。 [1-4]　ICT を活用した教育支援・学生支援の有益な情報収集を行うため、電子計算機センター運営委員若しくは情報処理課職員を各種研修会等に派遣し、本学にマッチしていると思われる試みを積極的に取り入れる。 [1-5]　サポートデスクスタッフが行っている映像教材への字幕挿入活動を教員に積極的にアピールし、利用してもらう事で、聴覚に障がいのある学生への講義保障支援を実施する。また、聴覚に障がいのある学生との懇談会を定期的に実施することで、よりわかりやすい字幕挿入の仕方を追求しつづける。 [1-6]　情報教育システム、アクティブラーニング教室といった新しい施設設備の有効活用を検討する。	[1-1] 情報教育システム課題管理表 [1-2] 情報教育環境に関する調査 [1-3] 情報基礎科目相談内容一覧 [1-4] 研修報告、情報教育環境調査 [1-5] 字幕挿入実績一覧、字幕挿入に関するアンケート調査等 [1-6] 情報教育環境に関する調査

2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育研究にかかるインターネット環境を更新する。	基幹ネットワークの更新が 9 月に完了し、検収もおこなった。特にファイアーウォールの機能アップに伴い、よりきめ細かなセキュリティ設定が可能となった。 セキュリティの向上に伴い、運用の安定度もアップした。	教育研究システムの安定運用に資する取り組みを継続して実施できている。
	[1-2]　継続し moodle の機能改善および安定運用を図る。	2017 年度もキャンパス e-learning システム(Moodle LMS)は安定運用されている。 広範囲に必要な支援提供を行った。具体的内容は以下の通り。 ・授業評価アンケートへの適用試行 ・年数回のセキュリティパッチ適用 ・アップデートとサーバパフォーマンスの最適化 ・全学的な新入生向け Placement Test の管理 ・カスタムプラグインの導入とトラブルシューティング ・年間 200 以上のコース作成（学期ごと） ・教育支援課のための出席入力のコーディネート	最新の動作環境を調査し必要な手当を行うことにより安定稼働を維持している。

		e-learning への要望調査は年度当初行ったが、特段の要請は無かった。	
	[1-3]　サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。	サポートデスクスタッフ内にて課題ごとの質問傾向等の分析を行った。これにより、スタッフは課題ごとにどのような指導を行うのが効果的か検討し情報共有することで、対応の質向上につながった。	履修学生の躓きのパターンの分析を行うことができた。
	[1-4]　引き続き研修会等に参加し、参加者からの情報を共有した上で、本学への適用を検討する。	学外研修は「Moodle Moot 2018」へ参加した。このことを通じて情報収集を行い、情報共有が実現できた。	教職員の派遣による情報収集を継続して行うことができている。
	[1-5]　効果的な字幕挿入を検討し、必要に応じて字幕入れソフトの更新を検討する。	「おこ助３」という字幕挿入編集ソフトを試用した。従来の「カムタジア」との比較検討を行う予定であったが字幕挿入依頼が多数あり、比較検討する時間的余裕がなかった。	字幕挿入の質の維持・向上に向けた取り組みを継続している。
	[1-6]　パソコン教室の環境を見直し、充実させるための方策を検討する。	Yosemite のサポートが切れることに伴い、OSX バージョンアップを検討した。2018 年度予算で High Sierra へのバージョンアップ費用を要求し、認められた。	教育研究等を支援する環境の整備を図ることができた。
2018 年度	年次計画内容		
	[1-1]　教育研究にかかわるネットワーク環境の安定運用を図る。		
	[1-2]　継続し moodle の機能改善および安定運用を図る。		
	[1-3]　サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。		
	[1-4]　引き続き研修会等に参加し、参加者からの情報を共有した上で、本学への適用を検討する。		
	[1-5]　効果的な字幕挿入を検討するとともに、現在保有している 2 つの字幕入れソフトについて、比較・検証を行う。		
	[1-6]　パソコン教室の環境を見直し、充実させるための方策を検討する。あわせて、キャンパス整備計画（新札幌拠点展開）と連携し、将来の ICT 環境の検討を進める。		

（５）情報セキュリティ委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　個人情報の適切な保護と有効活用を行うため、個人情報に関する諸規程やガイドラインの見直しを常に行う。 [1-2]　学内ネットワークについて、適切なセキュリティ対策を施し、安全かつ安定的に運用を行う。 [1-3]　学生・教職員等の利用者に対し、継続的な注意喚起を行うことでセキュリティに対する意識を向上させ、インシデントを未然に防ぐ体制を維持する。			[1-1]個人情報に関する諸規程、ガイドラインの確認 [1-2]セキュリティ対策作業実績 [1-3]注意喚起等実施実績（内容含む） インシデント履歴
2017 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　機器の更新、利用環境・セキュリティ対策等の変化および、昨年度制定された個人情報保護規程と照らし合わせ、既存のガイドラインを見直す。	個人情報保護規程や現在の情勢と照らし合わせガイドラインを見直したが改訂には至らなかった。	今年度は、中期目標達成に向けた新たな進展はなかった。
	[1-2]　基幹ネットワーク更新に伴い、電子計算機センター運営委員会と連携し新ネットワークのセキュリティ対策を講じる。	・ネットワーク機器更新に伴い、従前のネットワークと比して統合脅威管理が可能となる構成となり、セキュリティリスクの低減を実現した。 ・ランサムウェア対策として、ファイルサーバ増設の計画 を立てた。	前年度以上に安全かつ安定的な運用環境が実現した。
	[1-3]　引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。	セキュリティインシデントの実例周知および事務局向けセキュリティ講習会の開催によりセキュリティ意識の向上に繋がった。 以下の対策を行った。 ・悪意あるメールへの注意喚起。 ・事務局セキュリティ意識診断。 年度内に特段のセキュリティインシデントは無かった。	インシデント発生未然防止体制を維持できている。
2018 年度	年次計画内容		
	[1-1]　個人情報保護に関するガイドラインの見直しと改訂を行う。		
	[1-2]　学内の各システムについて脆弱性が報告された場合、電子計算機センターと連携して迅速かつ適切なセキュリティ対策を実施する。		
	[1-3]　引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。		

（６）コラボレーションセンター

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境を組織的に整備する。 [1-2]　学内ワークスタディの推進・拡大を通じて学生の就業力及び社会的資質の一層の向上を図ると同時に、経済的事情を抱える学生への支援機会を広く提供する。 [1-3]　実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）および能動的な活動に対する支援として、ピアサポーター（学生スタッフ）を配置する。ピアサポートによる学生同士の学び合いによる「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供する。 [1-4]　学生の就業力を高めるために、学生発案のプロジェクトを支援し、学生の自主性、能動性を伸張させる。 [1-5]　すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適応を解消し、イキイキと活躍できる「居場所」を提供する。 [1-6]　大学（第一キャンパス）の中心に位置する施設として、大学教職員、地域社会との協同を推進する。	[1-1] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査（アンケート） ③教育支援に対する教員満足度調査 [1-2] ①学生スタッフ勤務実績 ②進路決定状況 ③補助金交付状況 [1-3] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査（アンケート） ③教育支援に対する教員満足度調査 [1-4] ①プロジェクト活動参加人数 ②進路決定状況 ③学生満足度調査（アンケート） [1-5] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査（アンケート） [1-6] ①施設使用状況 ②教育支援に対する教員満足度調査

2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] (1) 実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進めるための環境整備として、必要な備品等を備えるとともに、施設使用モデル等を作成し、利用促進を図る。 (2) 企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。 (3) 課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。 (4) 『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。	[1-1] (1) コラボレーションセンターに設置している機器の使い方を改めてスタッフ内で共有し、ＰＲ用パンフレットを新しく作成した。 (2) 実践的な学びの機会として、冬（クリスマス）プロジェクトにおいて、「コラボカフェ」の運営をコラボレーションセンター学生スタッフが実施した。 (3) 事務職員が他大学へ出張した際に、施設の視察をおこなった。また、北星学園大学ピア・サポーターより、「北海道ピア・サポートコンソーシアム」への参加要請があり、コラボレーションセンター学生スタッフも今後、協力していくこととなった。 (4) コラボレーションセンター年報第３号を発刊した。第３号では、学生スタッフの活動を中心に紹介する内容とした。	[1-1] 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート））（調査中） 資料：教育支援に対する教員満足度調査（調査中）
	[1-2] (1) 学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとにバランスよく採用する。 (2) 学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、各種研修会への参加や学内のFD,SD委員会主催イベントにも積極的に参加する。	[1-2] (1) 新入生も早い段階から応募できるよう、6月の募集時期を新たに追加し、後期と合わせて2回募集を行った結果、14名の学生スタッフを採用することができた。 (2) FD,SD委員会が主催するイベントへの参加は実現しなかったが、新人スタッフが採用された時期に、教室の機器の研修を学生スタッフが講師役となり複数回実施した。また、毎月開催しているコラボレーションセンター運営委員会に学生スタッフも参加し、学生の視点から意見を述べ、コラボレーションセンターの運営に大きな役割を果たすことができた。	[1-2] ・学生スタッフ勤務実績 （14名／2017.4月～） 勤務総時間5,655時間50分 学生スタッフ最大636時間20分 学生スタッフ最小174時間50分 学生スタッフ一人当たり平均403時間59分 ・進路決定状況 学生スタッフ卒業対象者7名 →6名（道内企業に内定、内1名教員採用試験に合格） ・補助金交付状況／3,669千円（未確定）
	[1-3] (1) 学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。 (2) 学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。 (3)LINE@およびFacebookページによる新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。 (4) 新入生の友達作りのサポート企画を、入学前に実施する。	[1-3] (1) (2)在学生並びに新入生に対してのピアサポートとして、臨時のカウンターを3月下旬からエントランスに設置し、学内各所への橋渡し役となるピアサポートを実施した。 (3) LINE@、Facebookページによる新入生からの相談窓口を開設し、新入生12名から14件の質問があり、学生スタッフによる対応を行った。 (4) 新入生の入学後の不安を軽減する目的で、「入学前謎解きイベント」を実施する予定であったが、生協組織部が実施する	[1-3] 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート） 資料：教育支援に対する教員満足度調査

		「新入生歓迎会」と内容が一部重なる部分があったため、今年度は実施しなかった。	
	[1-4] (1) 学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。 (2) 本学のブランド力を高めるために、学生発案型プロジェクトを支援し、これを学外に向けて積極的に情報発信する。 (3) 学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。 (4) プロジェクト遂行の方法論（プロジェクトマネジメント）を学生に身につけさせる方法を検討する。	[1-4] (1) 「学生発案プロジェクト」の募集を行い（追加募集を含めて２回）、今年度は５件（継続５件）を採択した。 (2) 採択されたプロジェクトについては、中間報告会（11 月開催学びライブと同時開催）を行い、進捗状況について早い段階で確認できる仕組みを構築した。 　また、昨年同様、最終報告会（2/15 開催）では５台のスクリーンをエントランスに設置し発表を行った。 (3) 申請書、中間報告・最終報告会の資料、決算報告書の作成などを通じて、窓口での指導を継続して行った。 (4) 審査項目の見直しを行い、計画段階で押さえてもらいたい点を明確にした。	[1-4] ・プロジェクト活動参加人数／計 28 名 1.「携帯アプリ開発プロジェクト」３名 2.「国内協定校「松山大学」・高知県土佐市との交流促進プロジェクト」10 名 3.「音声認識を利用した情報保障プロジェクト」３名 4.「子ども食堂「ここなつ」プロジェクト」８名 5.「ＢＴＳプロジェクト」４名 ・資料：学生満足度調査（アンケート）
	[1-5] (1) 友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。 (2) 部活動・サークルなどの紹介「部活動・サークル紹介 Time」の開催や応援、大学オリジナルの LINE スタンプの制作など、帰属意識を高める企画を実施する。 (3) 情報ポータルや FACEBOOK ページを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。 (4) 季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。 (5) 「居場所」としての環境を維持、整備する。	[1-5] (1) 経営学部新入生ガイダンス、新入生向けに「謎解きゲーム」を実施し、学生生活適応の手助けをした。 (2) LINE スタンプ（第３弾）の製作・販売を行った。部活動・サークル紹介 Time」を５回昼休みにエントランスで実施し、体育系、文化系サークルに参加していただき、活動を紹介してもらった。 (3) 情報ポータル、ホームページに加え、Facebook ページ、Twitter アカウント、LINE@アカウントにて継続して情報発信を行った。新たな取り組みとして、冬（クリスマス）プロジェクトの開催時期に併せて、インスタグラムも開設した。学内には「月報（ポスター）」を作成し、積極的に広報した。 (4) 「雛飾り」「七夕」「クリスマスツリー」「お正月」などの季節を意識した展示を行った。クリスマスについては、エントランス全体に装飾を施しカフェも同時に運営した。七夕については 480 枚の短冊、お正月では 142 の絵馬が飾られ、多くの学生、教職員に参加していただいた。 (5) エントランスに設置した「利用者の声」、さらに、学生スタッフが日常的に清掃しやすいように、清掃グッズを充実させた。特に汚れが目立つ、エントランス、SGU coffice のソファの清掃も行った。	[1-5] 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート） ・プロジェクト活動参加人数／計６名 　「LINE スタンプ製作プロジェクト」６名 ※上記には学生スタッフ含む。 ※ここに記載するのはプロジェクトメンバーのみであり、参加者および利用者については含めていない。
	[1-6] (1) 高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。 (2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。 (3) ホームページや FACEBOOK ページなどの SNS（ソーシャルネットワークキングサービス）を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。 (4) 教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」をエントランスで開催する。 (5) 学生と卒業生が交流できる場の提供を検討する。	[1-6] (1) 大学祭開催時とハロウィンの時期に「謎解きゲーム」を開催した。また、11 月の学びライブ（オープンキャンパス）において、高校生向けに施設の紹介とスタッフの活動報告を実施した。 (2) 主催プロジェクトにおいて３つのプロジェクトを実施した。 ①厚田プロジェクト 　石狩市厚田区で開催された「厚田秋あじ祭り」に学生が 22 名参加し、地域の方々との交流を行った。 ②アールブリュットアート展プロジェクト 　センター長が中心となり、障がい者支援事業所等から絵画や手作り作品を提供していただき、２階廊下を使って展示を行った。 ③江別市からの謎解きゲーム問題作成協力 　江別市から「江別市リアル謎解きゲーム」の問題作成依頼を受け、２問問題を作成し提供した。 　また、昨年から継続している学生発案プ	[1-6] ・資料：施設使用状況 ・資料：教育支援に対する教員満足度調査 ・プロジェクト活動参加人数／計 33 名 　「厚田プロジェクト」　22 名 　「アールブリュットアート展プロジェクト」９名 　「江別市謎解きゲームプロジェクト」２名 ※上記には学生スタッフ含む。

		ロジェクトにおいて採択した「国内協定校の松山大学と連携するプロジェクト」のメンバーが中心となって江別市地域連携事業にチャレンジし、採択を受けた。松山大学訪問に合わせて、土佐市（江別市友好都市）にも訪問するなど、地域と連携した取り組みが前進した。 (3) 情報ポータル、ホームページに加え、Facebook ページ、Twitter アカウント、LINE@アカウントに加え、新規にインスタグラムを開設し情報発信を行った。 また、「学生スタッフ活動紹介」「学生発案プロジェクトＰＲ」動画を作成し、広報入試課にも協力していただき、本学の公式ユーチューブチャンネルに登録した。 (4) 2017 年度は新任教員に協力してもらい、「SGU Lunch Time Talk」を 4 月から計 10 回実施した。また、新たな取り組みとして札幌学院大学生協におにぎりを提供してもらう企画を実施した。昨年度実現した「劇団四季」とのコラボ企画も継続することができ、多くの学生・教職員が参加した。 (5) 学生スタッフ採用面接での質問のひとつとして、卒業生との交流企画のアイデアを訪ねた。	

2018 年度	**年次計画内容**
	[1-1] (1) 実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進めるための環境整備として、必要な備品等を備えるとともに、施設使用モデル等を作成し、利用促進を図る。 (2) 企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。 (3) 課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境づくりのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。 (4) 『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。 (5) 任意の学生向けイベント情報（コラボレーションセンターに限らず、他部署のイベントも含む）を統合したイベントカレンダーを作成し、周知する。
	[1-2] (1) 学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとにバランスよく採用する。 (2) 学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、各種研修会への参加や学内の FD,SD 委員会主催イベントにも積極的に参加する。
	[1-3] (1) 学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。 (2) 北海道ピア・サポートコンソーシアムへの参加を通じて他大学の学生との交流を深める。 (3) 学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。 (4) LINE@および Facebook ページによる新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。
	[1-4] (1) 学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。 (2) 今年度採択されたプロジェクトを紹介する動画を学生スタッフにより作成するなど、学内外に向けて積極的に情報発信する。 (3) 学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。
	[1-5] (1) 友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。 (2) 部活動・サークルなどの紹介「部活動・サークル紹介 Time」の開催や応援など、帰属意識を高める企画を実施する。 (3) 情報ポータルや FACEBOOK ページなどを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。 (4) 季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。 (5) 「居場所」としての環境を維持、整備する。
	[1-6] (1) 高校生や高校教員をターゲットにした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。 (2) 地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。 (3) ホームページや FACEBOOK ページなどの SNS（ソーシャルネットワークキングサービス）を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。 (4) 教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」 をエントランスで開催する。 (5) 卒業生に関与してもらえる仕組みづくりを検討する。

（７）常任理事会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
講義の担当時間と研究業績の公表等のバランスについて調査し、適切に管理する。			① 講義担当時間推移と研究業績の推移
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	・学部改組の内容を検討と併行しながら、専任教員科目・非常勤担当科目のバランスにも配慮しつつ、教員組織・カリキュラム・教育研究環境の問題点と改善案を検討する。 ・2018年度カリキュラム編成にあたり科目を精選されることを要請する。 ・継続して研究活動の不正行為と公的研究費の適正な管理・運営を確実に実施する。 ・さらなるFD活動の活性化とSDとの連携を促進する。	・地域における実習を強化するため、教養科目「地域貢献」「地域貢献活動」を地域連携科目群に再編し、地域貢献活動については総合研究所「地域連携特設部会」に科目担当者の派遣を要請した。 ・2018年度カリキュラム編成にあたり開講科目を精選する作業を、教養科目については全学教務委員会において実施した。 ・公的研究費による研究プロジェクトを受託した研究者のうち2名に対し内部監査室による内部監査が実施された。 ・FD研究会を5回、FD・SD合同セミナーを1回開催した。	・2018年度開設の地域連携科目群「地域貢献活動」の科目担当者派遣要請を総合研究所「地域連携特設部会」に要請したところ2名の教員の協力を得られることとなった。 ・教養科目については2018年度、18科目・クラス（うち14科目・クラスが非常勤講師担当）を廃止もしくは統合することに決した（基礎科目・外国語科目を除く）。 ・内部監査室より、公的研究費による研究プロジェクトを受託した研究者のうち監査を実施した2名においては研究費の管理・運営は適正であったとの監査結果を得た。 ・FD研究会と銘打っていても、実際は全ての研究会に職員も参加し、また一部には学生（SGUsers）の参加（活動報告）もあった。教員と職員の参加状況から見るとFD活動とSD活動の連携は達成されつつある。
2018年度	年次計画内容		
	・2018年度開設の心理学部において、アフターケアを着実に実施する。 ・スカラシップ入試制度利用入学者に対する全学的な支援体制を検討・確立する。 ・2020年度開設予定の人文学部新学科の届出申請の準備を進める。 ・2021年度を予定している社会科学系3学部の統合に向けた準備を進める。 ・法学研究科の教員組織・カリキュラムの問題点と改善案を検討する。 ・教育支援の充実のために、さらなるFD活動の活性化とSDとの連携を促進する。		

中期計画【計画３】（目標３に対応する計画）			達成度評価指標【指標３】
学生の学修環境及び教員の教育・研究環境の整備に関わる方針について、財政状況を考慮しつつ検討し、その結果を公表する。その方針に基づき、キャンパスの施設設備の整備を行う。			① 方針の策定と公表 ② 整備状況実績報告
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	・校地・校舎、施設・整備、情報インフラの中期的な計画、更新・補修計画を具体化する。 ・図書館書庫と閲覧室を整備する。 ・教育の質的転換に資する施設を整備する。 ・スポーツ施設の機能強化と地域社会へのサービス提供を推進する。 ・アメニティ向上を図る。 ・学生規模に応じて、施設をコンパクト化する。 ・環境負荷の低減と消費電力削減を進める。 ・情報ネットワーク技術を適用した教育・研究環境の充実と情報セキュリティ対策の向上を図る。	・新札幌への拠点展開を決定し、2つのキャンパスを総合的に活用するための施設整備計画の検討に着手した。 ・まず、新札幌キャンパスについては、G街区の土地を活用した特色ある教育研究及び産学連携、社会貢献を展開するため、都市整備計画における用途変更を含めて校舎建設・キャンパス整備の基本計画の策定を進めた。 ・文京台キャンパスの整備については、新札幌への拠点展開と連動し、学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化、学習・生活環境改善及び課外活動活性化のための施設整備を進めることとした。 ・キャンパス整備資金の調達方法として低金利融資の可能性を探るため、私学振興・共済事業団から指導、助言を受けた。 ・環境負荷（二酸化炭素排出）の低減と消費電力削減のため、昨年度から引き続きLED化を進めた。 ・基幹ネットワークの更新を行った。	・拠点展開と産学連携の小委員会を設置し、専門のコンサルタントも導入し、基本計画を策定した後、それを基に基本設計の段階に入る。 ・「学校法人札幌学院大学中期計画」において「キャンパス環境の整備」を重点課題に位置づけ、新札幌と文京台、2つのキャンパスを総合的に活用するための「キャンパス整備基本計画2018」（仮称。2018年度から5か年の基本方針と実施計画）を策定することとした。 ・環境保全と経費節減の観点から省エネルギー対策に取り組み、経済的成果が得られた。 ・先端の情報ネットワーク技術を適用した教育・研究環境の充実と情報セキュリティ対策の向上が実現した。
2018年度	年次計画内容		
	・新札幌キャンパスに関しては、基本計画を策定し、第Ｉ期に進出する新学部と社会連携に必要な施設・建物の基本設計と実施設計を進める。 ・Ｇ街区に進出する専門学校との連携協定を進め、Ｉ街区を含めた新札幌全体のエリア・マネジメントに参画する。 ・江別文京台キャンパスに関しては、学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化を進める。あわせて、学習環境改善と課外活動活性化のための施設整備を進める。 ・施設の補修、設備・機器・情報インフラの更新は、優先順位を付して年次計画的なメンテナンスサイクルを確立して経費を平準化する。 ・環境負荷の低減と消費電力削減を進める。 ・情報ネットワーク技術を適用した教育・研究施設の充実と情報セキュリティ対策のさらなる強化を図る。		